

第1章 計画の概要

第1節 計画の作成

- (1) 作成年月日 令和7（2025）年9月
- (2) 作成者 高知県

第2節 文化財の名称等

- (1) 登録有形文化財（建造物）の名称及び員数
 - ① 旧陸軍歩兵第四四連隊弾薬庫 1棟
 - ② 旧陸軍歩兵第四四連隊講堂 1棟
- (2) 登録有形文化財（建造物）の構造及び形式
 - ① 旧陸軍歩兵第四四連隊弾薬庫
煉瓦造平屋建、瓦葺、建築面積 156㎡
 - ② 旧陸軍歩兵第四四連隊講堂
木造平屋建、鉄板葺、建築面積 248㎡
- (3) 所在地 高知県高知市曙町二丁目 960-3
- (4) 所有者の氏名及び住所
 - ① 所有者 高知県
 - ② 所有者の住所 高知県高知市丸ノ内一丁目 2-20
- (5) 登録年月日 令和5（2023）年2月27日

第3節 文化財の概要

1 文化財の構成

登録有形文化財（建造物）旧陸軍歩兵第四四連隊弾薬庫及び講堂は、高知県所有の敷地（5,516㎡）に立地する。

2 文化財の概要

(1) 立地環境

旧陸軍歩兵第四四連隊（以下、第四四連隊を記す）跡地は、高知市西部の朝倉に位置し、JR朝倉駅の南約100mにあり、高知市から土佐市へと伸びる県道38号に面している（図1.3.1）。国立大学法人高知大学朝倉キャンパスの敷地に隣接し、周辺には朝倉神社、朝倉城跡、朝倉古墳などが残る。敷地は、第四四連隊の兵営の内、北西に位置する区画であり、周辺には、陸軍墓地など第四四連隊関連施設も残る。

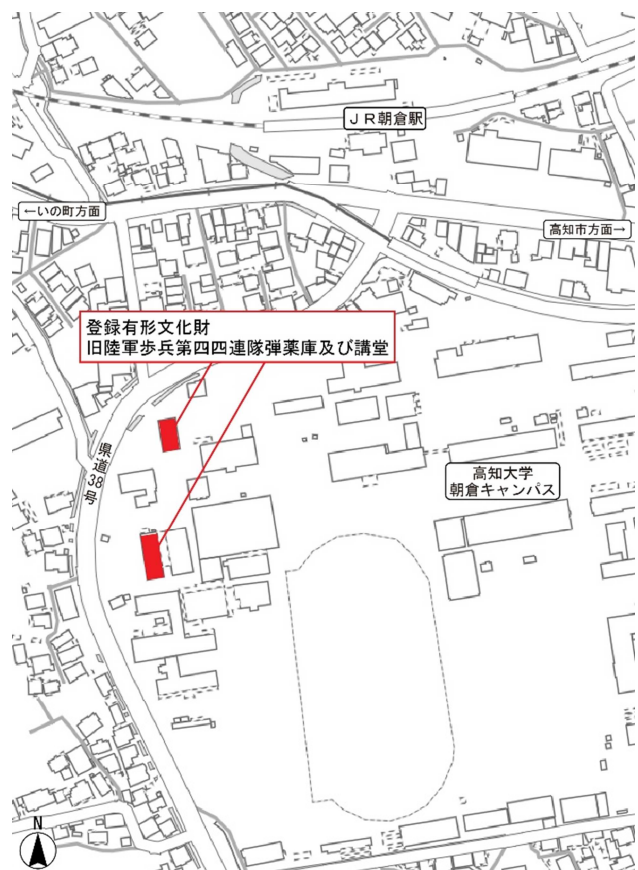


図1.3.1 位置図 出典：国土地理院地図に加筆

(2) 創立沿革

明治28（1895）年日清戦争が終結し日本は勝利したが、第三国のフランス、ドイツ、ロシアの三国干渉を受け、手にした遼東半島を放棄するに至った。その三国干渉の結果を国力の弱さからくるものと受け止め富国強兵政策に拍車をかけた日本は、日清戦争で手に入れた巨額の賠償金を基に軍事拡張に

第1章 計画の概要

舵を切った。計画には軍備編成が含まれ、日清戦争時に七個であった陸軍の師団を更に六個師団を増設するという内容であった。明治29(1896)年7月には第七(旭川)、第八(弘前)、第九(金沢)、第十(姫路)、第十二(小倉)、後に歩兵第四四連隊が編成される第十一(善通寺)を含む六個師団が発足している。

明治29(1896)年5月に新たな兵営地の選定が行われた際、当時の石田英吉県知事が高知経済を理由として誘致の陳情に赴いている。買収・譲渡・献納等でまとまった土地と募金が集まったため、朝倉村に兵営設置が決定された。兵営設置に決定した土地は当時水田であった。

同年9月に陸軍広島支部から朝倉村の兵営予定地に連隊本部と兵舎の入札公告がでる。同年12月に、第十一師団管下の松山歩兵第二二連隊兵営において高知県出身兵により歩兵第四四連隊が編成された。新編部隊の編成にあたっては、歩兵連隊を一県一連隊の考えであった。そして、明治30(1897)年には兵士が訓練する練兵場や射撃場、病院など20棟余りが建設された。この時点で兵営全体の予定棟数の約1/3であった。(図1.3.2)。同年7月に第四四連隊は朝倉兵営に移り、翌年3月に宮中で勅語および軍旗を拝受した(図1.3.3)。

明治37(1904)年に日露戦争が開戦し同年4月に第十一師団に動員が下令される。第十一師団は、戦地となった旅順攻撃に参加し14,000人を超える死傷者を出した。第四四連隊に至っては戦死者1,382名、戦傷者2,091名にのぼったが、第十一師団はさらに進軍し奉天会戦にも参加するなど、明治38(1905)年8月にポーツマス条約により休戦するまでの期間従軍した。帰国の途についたのは明治39(1906)年1月であった(図1.3.4)。

ポーツマス条約の成立により、満州の一部を領有することになった日本は軍隊の駐紮に、第十一師団も派遣する。第四四連隊も一時派遣されることもあった。

昭和12(1937)年に日中戦争が始まり第十一師団も動員が下令される。昭和16(1941)年には太平洋戦争が開戦し、開戦前から東満の警備についていた第十一師団は昭和20(1945)年に内地転用が命ぜられる(図1.3.5、図1.3.6)。本土防衛を目的としたものであり第十一師団は高知平野の中核として配備され、第四四連隊は仁淀川口より浦戸湾にわたる海岸線に配置された。同年3月頃から敵機の本土空襲は激しくなり四国の主要都市も空襲をうけるようになったが、四国の対空部隊は兵力が少なく、四国の都市は大きな被害を被った。同年7月に高知市も被災し、建物被害は12,000戸以上、400名以上

の死者が出た。

昭和20(1945)年8月15日に太平洋戦争の終戦を迎える。将兵の軍旗に対する精神的敬仰は強く、軍旗を敵手に委ねるくらいならば奉焼すべきと、陸軍大臣は8月24日全軍に対し命令をだしている。第十一師団は8月18日には、高知市にある高森山東方高地に軍旗を移し、奉焼を行った(図1.3.7)。同年11月下旬をもって四国に所在した各部隊は一切の残務処理を終え復員を完結しており、9月10日、第四四連隊においても仁淀川大橋南側で復員式を行い、約50年間にわたり高知県の郷土部隊として知られたその歴史の幕を閉じた。

第二次世界大戦の終結(昭和20(1945)年)に伴い、同年11月米軍が高知に進駐し朝倉兵営に入営、昭和21(1946)年5月には英連邦占領軍が進駐して入営する。昭和22(1947)年には朝倉兵営が進駐軍から日本政府に返還され、高知師範学校、大蔵省印刷局及び朝倉新制中学校に払い下げられる。

弾薬庫及び講堂は、第四四連隊の兵営が当地に置かれた明治30(1897)年以降、順次整備された建造物である(図1.3.8)。朝倉兵営に建てられた建造物は、現在弾薬庫と講堂の2棟のみが残されている。

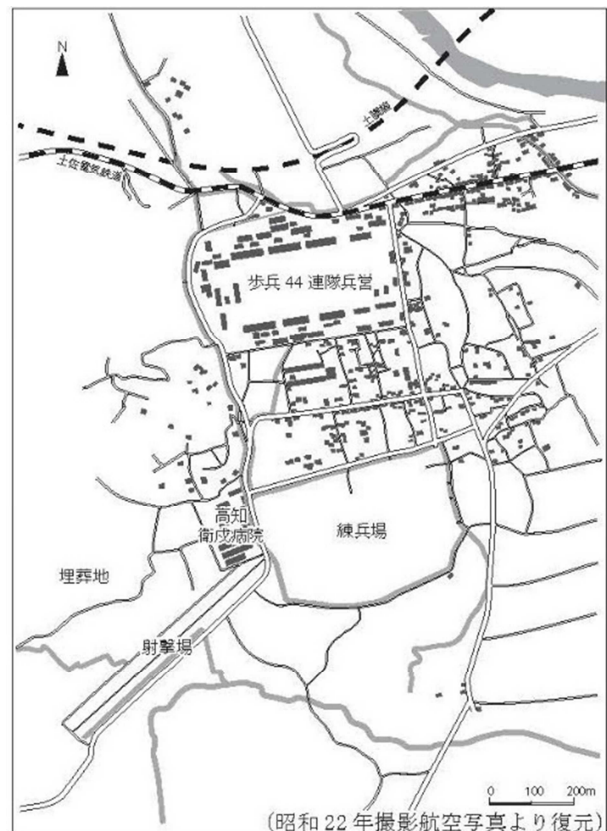
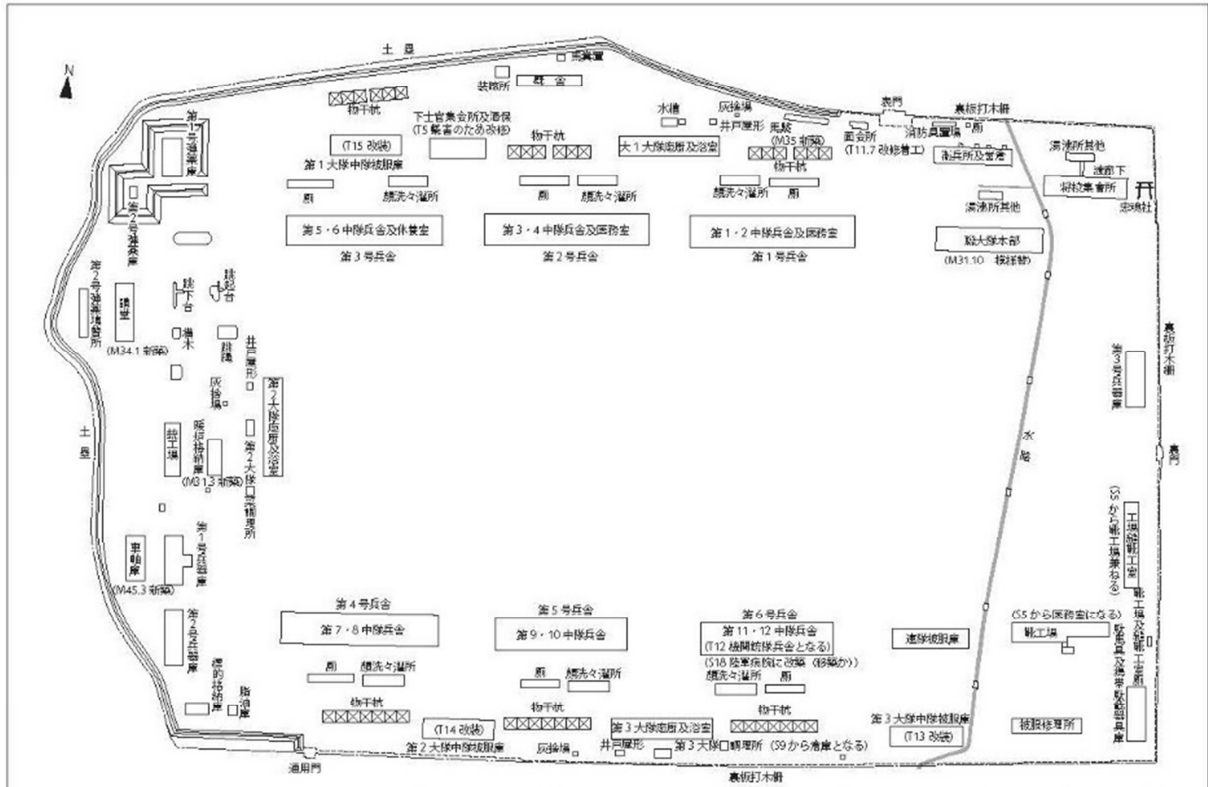


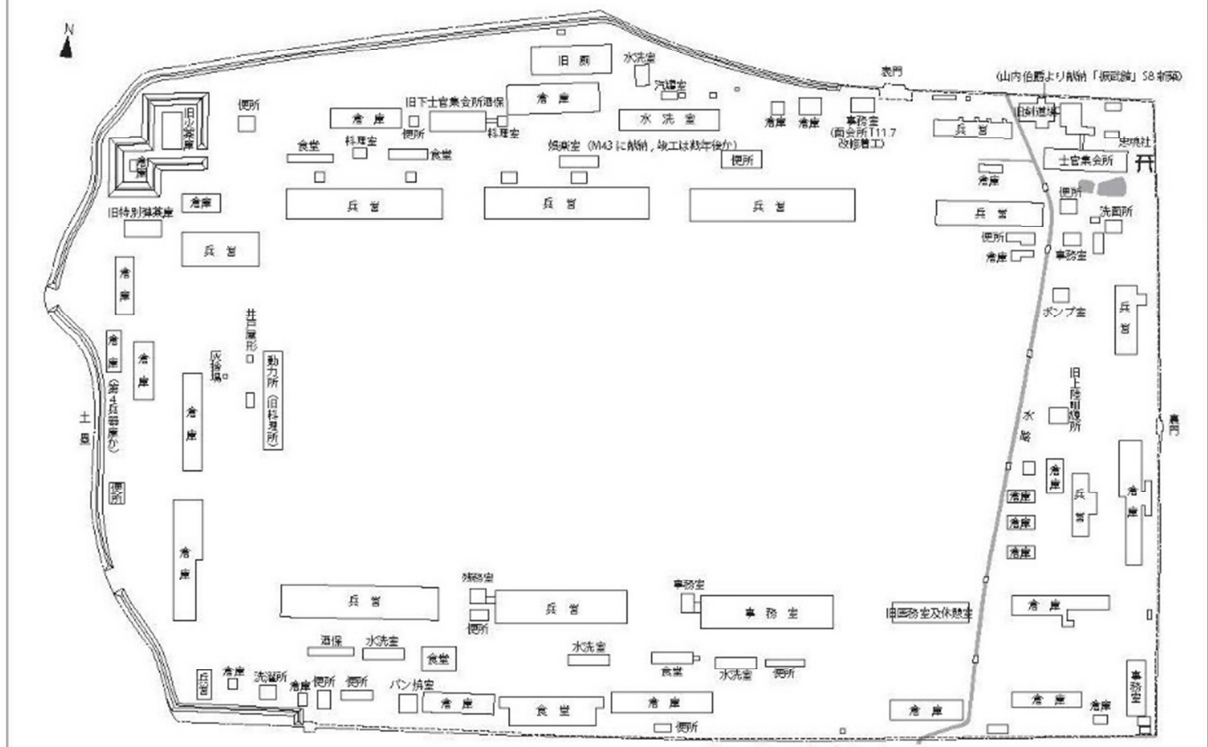
図1.3.2 兵営配置復元図

出典：高知市教育委員会

『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』(2016)



明治末から大正前半頃（付図 歩兵第44連隊兵営配置図を元に復元 建物用途は付図に準じる）



終戦時（記録IV-16を元に復元 建物用途は記録IV-16に準じる）

忠魂社・池については上記の参考資料に記載されていないが、他資料より復元した

図 1.3.3 兵営配置復元図（上部：明治末から大正前半頃、下部：終戦時）

出典：高知市教育委員会『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』（2016）



図 1.3.4 日露戦争出征前（高知市・明治 37 年）
出典：『目で見る高知・南国の 100 年』（2007）



図 1.3.5 兵隊の訓練（高知市・昭和 17 年頃）
出典：同上



図 1.3.6 軍旗を先頭に行進（高知市・昭和 17 年頃）
出典：同上



図 1.3.7 歩兵第四連隊軍旗奉焼の地
出典：『四国師団史』（1972）

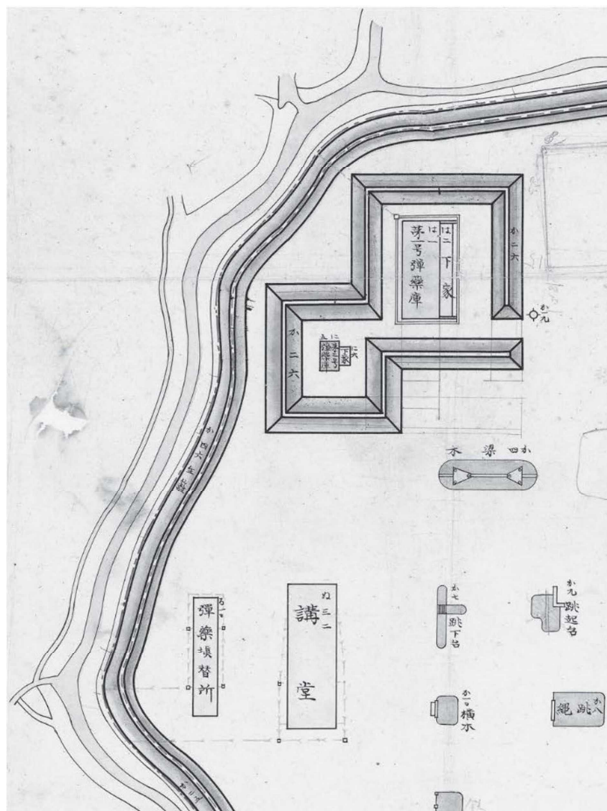


図 1.3.8 兵営配置復元図
出典：高知市教育委員会
『旧陸軍歩兵第 44 連隊弾薬庫等調査報告書』（2016）

表 1.3.1 旧陸軍歩兵第四四連隊建造物の歴史

年代	月日	概要
明治29(1896)年	12月	松山兵営で第四四連隊が設立
明治30(1897)年	7月13日	兵営竣工についての記事が掲載(土陽新聞より)。新聞には、「講堂が間もなく竣工予定」と記載
	7月末	第四四連隊が高知市朝倉村へ転営
	8月2日	「仮弾薬庫」が落雷
明治31(1898)年	3月24日	宮中で勅語および軍旗を拝受
	6月	埋葬地(陸軍墓地)の位置が決定。同年11月、埋葬地の土地が買収
	7~9月	建造物が新築・改築、道路が新設・拡張
明治33(1900)年	10月	兵営から練兵場に向かう道路新設のための土地が買収
明治34(1901)年	1月	「歩兵第四四連隊講堂新築の件」という文書が公布
明治37(1904)年		日露戦争が開戦
明治40(1907)年~翌年		建物が模様替え、境界線や柵が新設
明治43(1910)年		兵営内へ娯楽施設が献納
明治44(1911)年		射撃場改修工事及び兵営周囲の木柵が土塁に改造
明治45(1912)年		車輛庫が新築
大正元(1912)年		装蹄場が新築
大正3(1914)年		射撃場沿いの道が整備
大正4(1915)年		射撃防弾壁が築造。大正10(1921)年頃までは様々な保守工事が実施
大正11(1922)年	7月	機関銃隊用廁が新築、面会所が改築
大正12(1923)年		第六号兵舎の一部が改築
大正13(1924)年		第三被服庫が改築
大正14(1925)年		炊事場及び浴室井戸給水設備が「タービンポンプ」に変更、倉庫が改修
大正15(1926)年		第二被服庫の修理が終了、第一被服庫が改修(昭和2(1927)年竣工)
昭和3(1928)年		小銃射撃場防弾壁が解除
昭和5(1930)年		靴工場が縫工場に移動、医務室が旧靴工場に移動、旧医務室は中隊が使用
昭和8(1933)年		剣術道場が建設
昭和9(1934)年		兵器庫が改築、第三炊事場が倉庫専用、第二炊事場で全て賄うように改築、演習場が改造、靴工場北側に鉄塔が新設、訓練講堂が新築
昭和12(1937)年		日中戦争が開戦
昭和20(1945)年	8月15日	太平洋戦争が終結
	8月18日	高森山で軍旗を奉焼
	9月10日	仁淀川大橋南側で復員式を行って第四四連隊が解散
	11月	米軍が高知に進駐し朝倉兵営に入営
昭和21(1946)年	5月	英連邦占領軍が進駐して入営
昭和22(1947)年		朝倉旧兵舎が進駐軍から日本政府に返還、高知師範学校と大蔵省印刷局、朝倉新制中学校に払い下げられ
昭和23(1948)年	10月	印刷局岡山出張所の管轄する高知倉庫が設置され、弾薬庫と講堂を倉庫として使用
昭和31(1956)年頃		弾薬庫周囲の土塁が撤去
平成23(2011)年	3月	国立印刷局高知出張所が閉鎖
令和3(2021)年	6月	高知県が土地を取得
令和5(2023)年	2月	弾薬庫及び講堂が登録有形文化財に登録

第1章 計画の概要

(3) 施設の性格

弾薬庫及び講堂は、昭和23(1948)年10月以降、大蔵省印刷局岡山出張所の管轄する、主に紙幣材料の三桎や楮などの倉庫として使用していた。平成23(2011)年3月国立印刷局の組織改編に伴い、弾薬庫及び講堂を含む敷地を持つ高知出張所が閉鎖した。閉鎖に伴い、弾薬庫及び講堂の解体撤去の方針が示されたが、保存を望む市民の声が高まり、令和3(2021)年6月に高知県が当該土地建物を取得し、保存・整備を行うこととなった。

(4) 建造物の概要

①弾薬庫

煉瓦造、桁行17.6m、梁間8.9m、平屋建て、寄棟造、棧瓦葺で正面に下屋(セメント瓦葺)を付す(図1.3.9)。主体部の外壁は厚さ約50cmの煉瓦壁が、内部の間仕切り壁は厚さ約35cmの煉瓦壁が桁下まで立ち上がる。下屋の両側面は厚さ約25cmの煉瓦積の袖壁が主体部から延びる。外壁はペンキ塗り仕上げ、下屋正面は縦板張りで木製片引き戸の出入口を3箇所設け、それぞれにモルタル仕上げの階段が取り付け(写真1.3.1)。

主体部の内部は桁行方向にほぼ等分されて3室に別れ、各室入口は特徴的なゆるやかなアーチ状のブリキ製の両開き戸があり、その内側に木製腰高ガラスの両引き戸が取り付け。ガラス部分には真鍮製の縦格子が付く。内部の仕上げは各室同じで、天井は梁間方向に約30cm間隔で密に渡した野縁に洋釘止めした板張りとし、内壁は縦羽目板張りで角釘止めとし、廻り縁、内法長押、地長押を廻す。各部屋に2箇所ずつ上げ下げ窓があり、その外部は持ち送りで小庇を付け、片開きの鋼製扉を金具止めとしている。床高は約80cmで、床下換気口を12箇所設ける(写真1.3.2)。

小屋組みは真束小屋組の洋小屋で、軒廻りは、母屋、棟木に垂木を架け渡して鼻先に広小舞を打ち、野地板は横板張りとする。垂木小口には鼻隠板を打ち、それを金属板で覆っている。床組は、レンガ積部は控え基礎を設けて、大引きを受け、その他の部分は自然石切石の束石に床束を建て、大引き及び根太を掛け渡す。大引きは桁行方向、根太は梁間方向に掛け、床板は桁行方向に張り、根太に洋釘止めとする(写真1.3.3)。

下屋は、床組み及び垂木から上は部材が新しく、加工痕や風食具合から昭和中期頃に改修されたと推定される(写真1.3.4)。

②講堂

木造、桁行27.3m、梁間9.1m、平屋建て、寄棟造、鉄板葺である(図1.3.10)。基礎はレンガ積、その上に土台を廻し、南北面は1間毎に、東西面は開口の中に柱を建て、胴差で固め、その上下に筋交、間柱を配す。外壁は南京下見板張り、ペンキ塗り仕上げである(写真1.3.5)。

内部は、当初は3室に分かれていたが、現在は間仕切り壁が撤去され、1室の大空間となっている。東面の出入口は3箇所あり、当初の建具は不明だが、現在は電動シャッターとなっている(写真1.3.6)。東西面には一間巾の窓を設け、引き違いのガラス戸、その外側には両開きの板戸が取り付け。天井はなく、内壁は縦板張り目板打ちとし、廻り縁、内法長押、地長押を廻す。床はコンクリート仕上げとなっている(写真1.3.7)。

小屋組は真束小屋組の洋小屋だが弾薬庫と違って、陸梁は中央を金物で継ぎ、挟み吊り束がある(写真1.3.8)。

(5) 主な改造とその内容

①弾薬庫

・下屋屋根の葺き材は、昭和期に棧瓦葺きからセメント瓦葺きに替わっている。

・主屋根は、垂木から上部の野地板は昭和50年代に改修されて、棧瓦も葺き替えられている。また、小屋組は、桁の番付と墨書が新たに施されており、桁や鼻母屋の一部も改修されている。

・下屋の間仕切り壁は、撤去されている。

②講堂

・窓の建具は、引違ガラス格子窓の外部に両開き亜鉛メッキ鋼板張り木製建具が付加されている。固定には、縦型木製門を用いている。

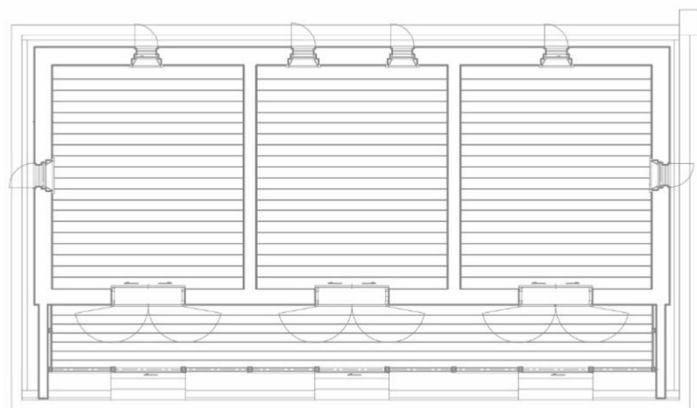
・建物西面の出入口には鋼製シャッターが取り付けられているが、当初のこの付近には掃き出し形式の建具が組み込まれていたと思われる。現在の出入口の形状は内部に車が乗り込めるように、大きく広げており、車が進入できる車路を設け、内部床はコンクリートに塗床で仕上げている。

・当初の内部は3分割された室として使用されており、戦後の国立印刷局時代に倉庫として空間を広く使う目的で、間仕切り壁は撤去されている。

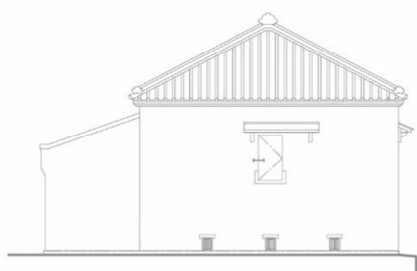
・屋根葺き材は、棧瓦から瓦棒カラー鉄板に替わっている。

・廻り縁の痕跡により、当初、講堂の各教室の天井には棹縁天井が張られていたと思われる。

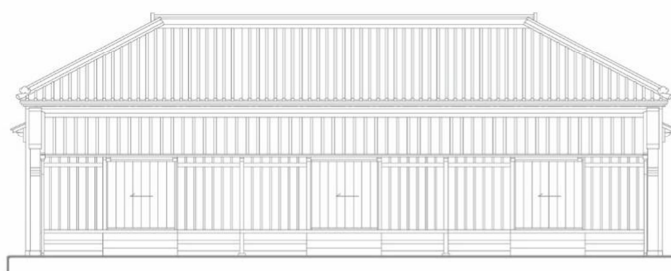
・外壁は、創建時は素地現しだったものが、国立印刷局時代に白ペンキを塗装している。



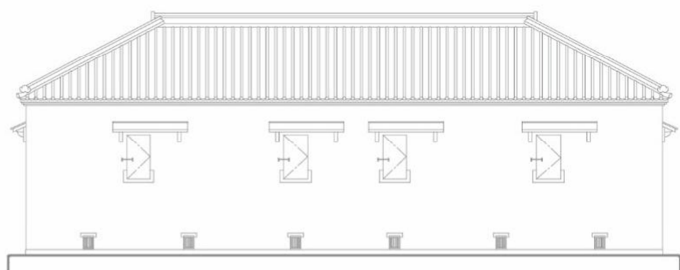
[平面図]



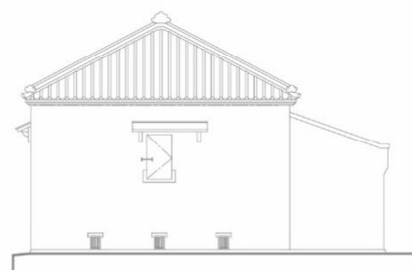
[北立面図]



[東立面図]



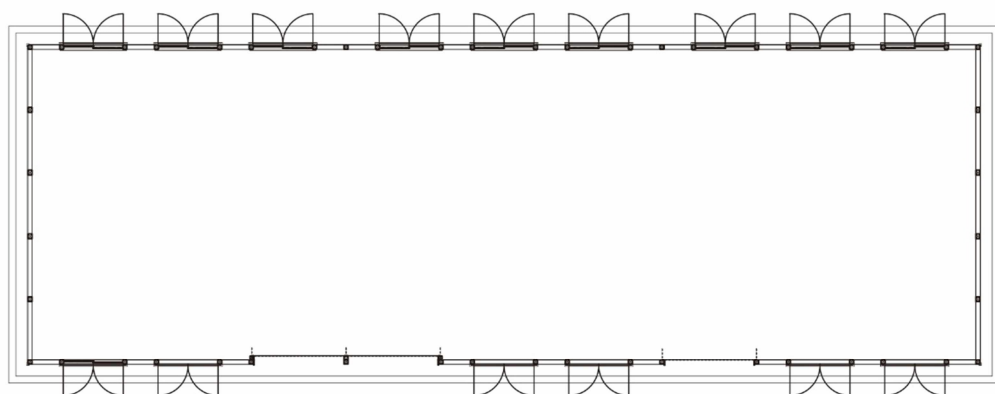
[西立面図]



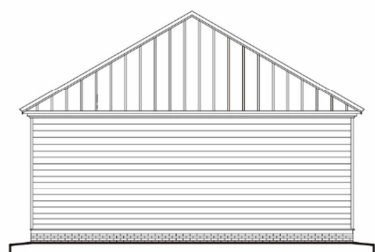
[南立面図]



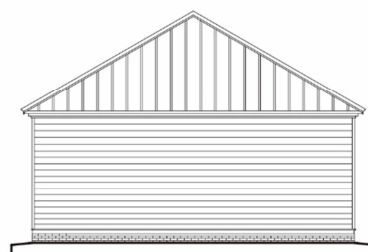
図 1.3.9 弾薬庫 平面図・立面図



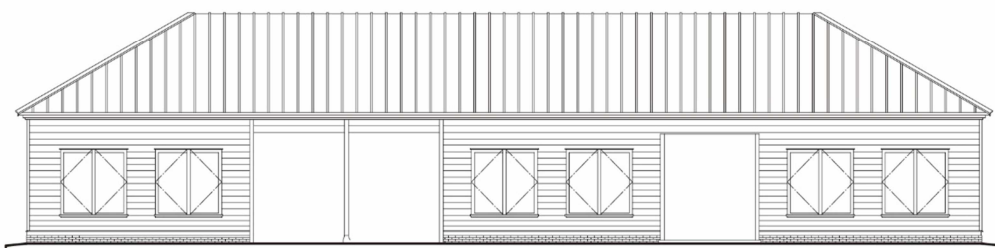
[平面図]



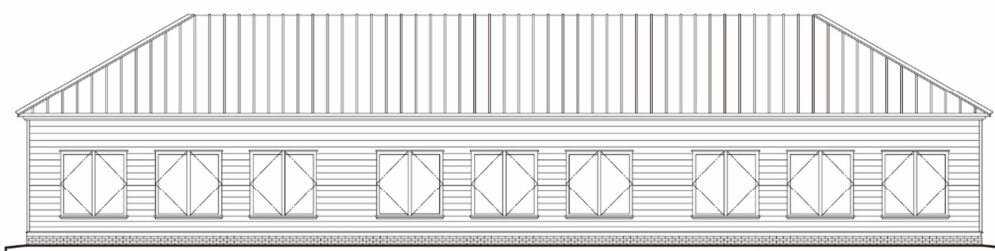
[北立面図]



[南立面図]



[東立面図]



[西立面図]



図 1.3.10 講堂 平面図・立面図



写真 1.3.1 弾薬庫東面



写真 1.3.5 講堂西面

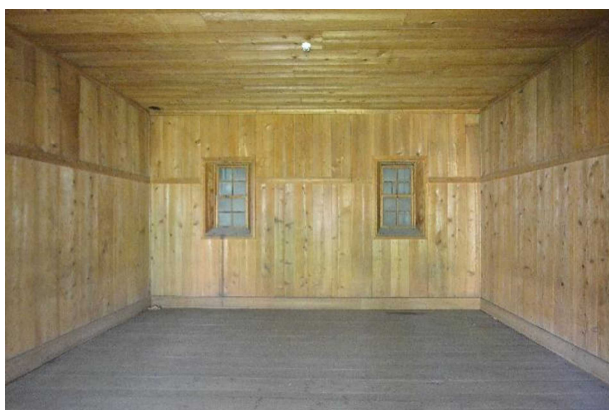


写真 1.3.2 弾薬庫内部



写真 1.3.6 講堂東面

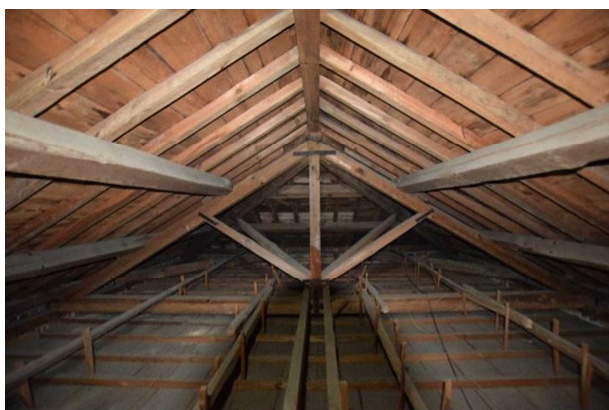


写真 1.3.3 弾薬庫小屋組

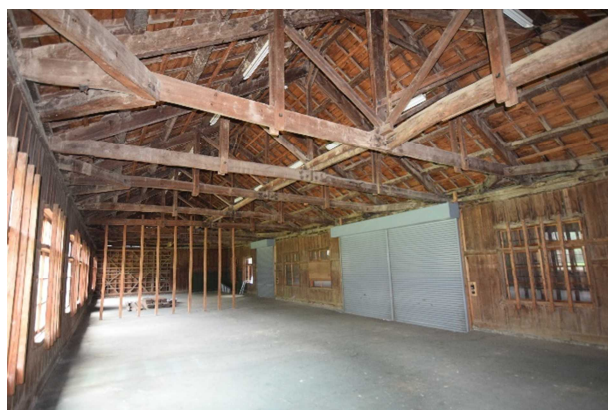


写真 1.3.7 講堂内部

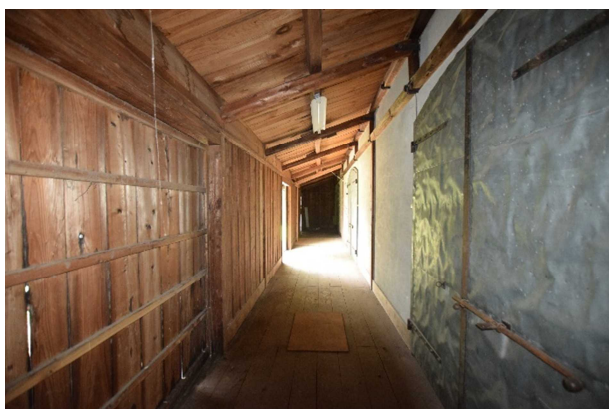


写真 1.3.4 弾薬庫下屋

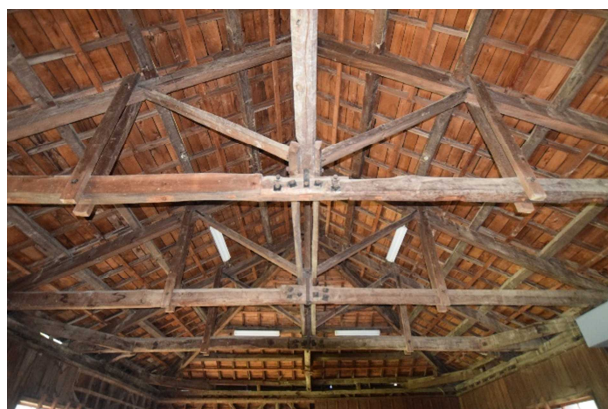


写真 1.3.8 講堂小屋組

3 文化財の価値

文化財保護法第57条第1項の規定により、旧陸軍歩兵第四四連隊弾薬庫及び講堂は令和5(2023)年2月27日付けをもって文化財登録原本に登録された。登録基準は「二 造形の規範となっているもの」であり、登録時に記載された建物の特徴等は以下の通りである(出典:『月刊文化財(令和5年2月)』)。

市内西部の旧陸軍跡地にある弾薬庫と講堂で、戦後は国立印刷局の三楹・楮倉庫として用いられた。弾薬庫は煉瓦造平屋建てで、正面に下屋を付す。高床で湿気を抑え、内部は天井・壁・床を板張りとする三室を並べる。講堂は木造平屋建てで、下見板張りの外観に窓を多く配す。当初は内部を三室に区切り、下士官の講義室とした。

(1) 歴史的価値

高知の郷土部隊であった第四四連隊の兵営は戦後、進駐軍から高知師範学校と大蔵省印刷局に払い下げられた後、少しずつ撤去され新たな施設を建設し機能を変えていった。

弾薬庫と講堂は、終戦時に旧朝倉兵営の中で存在した約80棟の建造物・工作物のなかで、活用方法が変わりながらも形状を変えず残存した遺構として希少である。さらに、弾薬庫は、進駐軍が使用していた時期の痕跡が残る。建具には備蓄庫として使用されていたと分かる英語記載が残り、戦後の進駐軍統治下の旧兵営を伝える上で重要である。

弾薬庫と講堂は一部を改修されているものの、当初の形態と部材が多く残されており、当時の機能と意匠を伝える上で歴史的価値を有する建造物である。

(2) 建築的価値

弾薬庫と講堂は、高知県の数少ない意匠・構造・材料などに和風と洋風が入り混じる明治期の貴重な建造物である。

弾薬庫は、壁体部分はレンガ組積造、小屋裏は洋風トラス構造、床組みと小屋裏の母屋以上の垂木や野地板は和風を踏襲しており、和洋風の大きな特徴を残している。また、弾薬庫は湿気対策として、床組みを高く上げ、壁・天井を木仕上げとしている。

講堂は、レンガ組積造基礎部分・外壁南京下見板張り・角部分の付柱、軒下の換気口・内部小屋組み真束トラスは洋風の構造を採用している。一方、レンガ基礎上部の土台から柱建てと敷桁・縦羽目板張りに見板付き内壁仕上げ・小屋裏の垂木と野

地板、また、改修時(昭和50年代)に撤去された間仕切り壁・竿縁天井・元の棧瓦葺き屋根から瓦棒亜鉛鉄板葺に改修され屋根は、和風の構造や仕上材を使用していることから、和風構造形式に洋風構造形式を組み込んだ建造物である。

(3) 社会的価値

弾薬庫と講堂および周辺に点在する関連施設は、朝倉地区に残る第四四連隊を後世に語り継ぐための重要な場所である。見学者が実際に建造物や跡地を見学することで、第四四連隊及び関連部隊の歴史や時代背景を理解し、戦争の史実を知ることができる。

第4節 文化財保護の経緯

1 保存事業履歴

平成23(2011)年5月7日に「旧陸軍歩兵第四十四連隊の弾薬庫等を保存する会」が結成され、同会は、5月26日現地見学会を開催し、そして、同日「独立行政法人国立印刷局高知出張所内の旧陸軍歩兵第四十四連隊の弾薬庫等についての要望」を高知市長に提出した。この要望を受け高知市教育委員会では、7月8日「平成23年度第1回高知市文化財保護審議会」において委員の現地調査視察実施を決定し、10月12日史跡・埋蔵文化財・建造物関係の委員が現地視察を行った。そして、平成24(2012)年6月6日「平成24年度第1回高知市文化財保護審議会」において、詳細な調査の必要性が、平成25(2013)年1月8日「平成24年度第2回高知市文化財保護審議会」において、小委員会組織の必要性が議論された。

平成26(2014)年7月9日、「国立大学法人高知大学と高知市との連携に関する協定」に基づき「第11回高知大学・高知市コーディネーター会議」が開催された。そこに高知市より「高知市教育委員会としてもその学術的価値等を高知市文化財保護審議会に諮問し、調査の必要があるとの回答を得ている。調査方法については、高知市単独で行うのではなく、当該敷地に隣接する高知大学との連携によりこの弾薬庫等の文化財としての価値を学術的な立場から調査し、今後保存を含めた活用の方策を模索するため連携事業」を提案し、高知大学からは「調査に向けたチームを編成し、対応が可能である」との説明があった。

平成27(2015)年3月、財務省高知財務事務所より、当該施設が同年1月に財務省管轄の財産になり、公売する方針であるとの連絡があった。そこで、高知市教育委員会と高知大学

で協議を進め、同年9月の高知市議会定例会において調査事業予算案が可決され、高知市教育委員会が高知大学に委託する形で調査を実施することとなった。

高知大学では建造物調査、埋蔵物調査、文献等調査を実施することとし、学内及び学外のそれぞれの専門家からなる研究チームを編成し、高知市教育委員会とも連携しつつ調査に当たり、その結果について『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』(2016)をまとめあげた。その後、高知市は当該土地・施設の取得を検討したが見送られている。

平成28(2016)年11月に高知財務事務所は、県と市に取得の意思の有無について照会して、それぞれから取得の意思がないことを確認し、公売の手続を進めていたところだったが、県から財務事務所に対して公売手続を一時中止することを願い出て、平成30(2018)年2月末まで処分留保となった。その間、県が当該土地・施設を取得して保存するべきかどうかを判断するため、弾薬庫および講堂の文化財としての価値について、高知県文化財保護審議会に諮問され、「弾薬庫、講堂ともに国登録有形文化財に相当し、また弾薬庫については県指定文化財に相当する」と答申された。その後、県は取得に向けた検討を進め、平成31(2019)年に土地取得について意思表示をした。その後の経過は表1.4.1の通りである。

表 1.4.1 令和元(2019)年以降の保存事業

年	月	内容
令和元年 (2019)	5月	旧陸軍歩兵第44連隊跡地保存活用検討委員会を設置
	11月	上記委員会にて保存・活用基本方針を策定
令和2年 (2020)	2月	土地取得に係る不動産鑑定評価の予算案を議決
	6月	高知財務事務所に対して土地取得要望書を提出
	11月	国有財産四国地方審議会で、高知県を売却相手先として承認
令和3年 (2021)	6月	土地を取得
	11月	跡地活用調査等業務委託(跡地整備案の策定)
令和4年 (2022)	1月	弾薬庫及び講堂基本設計委託(保存修理基本設計及び耐震診断・補強案の策定)
	3月	弾薬庫の応急修繕(破損瓦の差替、下屋雨漏部・樋補修)
令和5年 (2023)	2月	弾薬庫及び講堂が登録有形文化財に登録

2 活用履歴

これまでに活用の履歴はない。

第5節 保護の現状と課題

1 保存の現状と課題

戦後に進駐軍から大蔵省印刷局に払い下げられて以降、建造物に大きな改変はみられないが、講堂内部の間仕切りが取り払われ、支えられていた屋根・小屋組みの垂下が見られ改善が必要である他、両建造物とも令和4(2022)年度に実施した耐震診断の結果、構造的な補強を必要とする。

内外観ともに建築当初の材料が多く残されている一方、大規模な修理工事を行ってきていないため、広範囲に大小の破損・腐朽が見られる。破損・腐朽の進行を止めるために管理計画・修理計画を検討する。

屋根葺き材も両建造物とも、経年劣化がみられ葺き替え又は部分葺き替えを検討する。外観、仕上材(塗装、左官)は劣化が顕著で、修理が必要であり、材料の更新を含めた修理方法を検討する。

2 活用の現状と課題

弾薬庫と講堂および周辺に点在する関連施設は、朝倉地区に残る第四四連隊を後世に語り継ぐための重要な場所である。語り継ぐ人々が減る中では、このような戦争遺構が重要な教材になり得ることから、それを活用するための適切な保存・整備を検討する。

展示施設あるいはその他の活用用途に変わることで用途変更の可能性があることと、修理の方針によっては建築行為に該当し建築基準法が遡及される可能性があり、建築基準法に適合した整備を検討する。

消防設備については通電されていない自動火災報知設備と、消火器が置かれている状況であるが、今後、活用用途に応じた消防設備の設置を検討する。

計画敷地内は弾薬庫と講堂以外は、国立印刷局時代に建築物・工作物を建替えあるいは新設されたものとなる。課外授業等教育カリキュラムの一環で公開活用をする上で、受け入れに耐え得る便益施設への更新が必要となる。地域に開かれた施設とする上で、駐車場・駐輪場・休憩スペース・管理室・トイレ等を敷地内に検討していく。

弾薬庫は、公開される施設として目指す場合に、建物外周は

第1章 計画の概要

樹木や草木が生い茂っており、建物外観の鑑賞や建物に出入りに支障があることから、建物へのアプローチ整備や樹木管理計画を検討する。検討にあたっては、バリアフリーやユニバーサルデザインにも配慮する。

講堂は、現状で建物の出入口は電動シャッターのみとなっており、災害時等の避難路として適切ではない。利用者が円滑に避難できる建具、設備を整備する。また、台風対策と思われる後補で取り付けられた雨戸は、固定具がなく開いた状態では風に煽られている。日常管理の方法と併せて建具類の施錠方法や金物の選定を行う。

第6節 計画の概要

1 計画区域

計画区域は、第四四連隊弾薬庫及び講堂の敷地（高知県所有）の範囲とする（図1.6.1）。当該敷地の変遷について、進駐軍と大蔵省印刷局時代の古図面から追うことができる。

まず、敷地の形状について、昭和22（1947）年には朝倉兵営が進駐軍から日本政府に返還される際の配置図「ASAKURA BARRACK」（図1.6.2）では、兵営を4つの区域に分割し、それぞれの区域は説明されている。この時点で、弾薬庫と講堂が位置する敷地Bが、全体から切り離されたことが分かる。

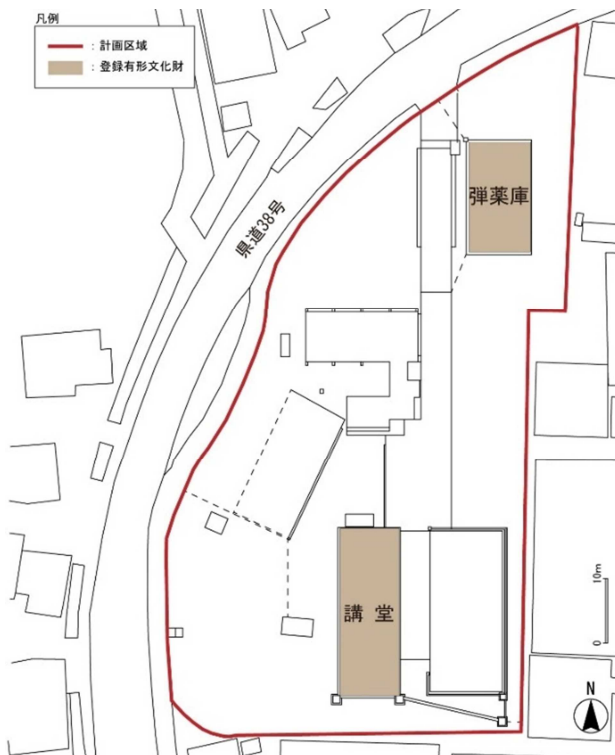


図1.6.1 計画区域図

A=英連邦軍保有地域(AREA HELD BY BCOF)

B=印刷局出先機関(OUTLYING STATION OF THE PRINTING BUREAU)

C=高知市朝倉新制中学校(ASAKURA LOWER SECONDRY SCHOOL)

D=高知師範学校(KOCHI NORMAL SCHOOL)

そして、敷地の出入口の位置について、大蔵省印刷局時代の配置図（図1.6.3、1.6.4）を見ると、昭和23（1948）年度から昭和42（1967）年度までの間に、出入口が西南隅に設けられていた。昭和48（1973）年度の配置図では、出入口が敷地の北側に移動された。

その後、敷地の形状及び出入口の位置は、変更がなく現在まで至る。

2 計画の目的と基本方針

本計画は、戦争の歴史を後世に語り継ぐ重要な施設として、第四四連隊弾薬庫及び講堂の価値を明らかにし、保存の方針を明確にする。文化財としての価値を活かしつつ、計画敷地および登録文化財建造物の今後の公開活用を図る。

3 計画の概要

本計画は、「保存管理計画」、「環境保全計画」、「防災計画」、「活用計画」と「保護に係る諸手続き」からなる。

保存管理計画では、保存管理の基本方針を示す。「保存管理の状況」では、本計画の対象建造物の保存管理の状況を明らかにし、「保護の方針」では、部分及び部位を設定して保護の方針を定める。「管理計画」では、管理体制及び管理方法について記載する。「修理計画」では、調査結果を踏まえ、修理項目を抽出する。

環境保全計画では、環境保全の基本方針を示す。敷地内を対象として現状と課題を整理し、環境保全に関する基本方針を示す。また、計画区域内を区分して保全の方針を定め、敷地内における建造物・工作物を区分して保護の方針を定める。さらに、防災上の課題と対策について記載する。

防災計画では、防火・防犯対策、耐震対策、耐風対策、その他災害対策について記載する。

活用計画では、公開活用基本方針を示し、公開計画及び活用基本計画を定め、実施に向けての課題を明らかにして活用基本計画を策定する。

保護に係る諸手続きでは、登録有形文化財（建造物）としての修理や改修などに必要な諸手続き及び関係法令について記載する。

Buildings to be released to Japanese Government 21st Airborne Division (Asakura Barracks) Asakura, Kochi City, Kochi Prefecture					Buildings to be retained by British Commonwealth Occupation Force 21st Airborne Division (Asakura Barracks) Asakura, Kochi City, Kochi Prefecture				
Building Number	Type of Construction	Number of Story	Floor Space (sq. ft.)	Note	Building Number	Type of Construction	Number of Story	Floor Space (sq. ft.)	Note
1	Wooden	1	1,406	Office room	33	Wooden	1	4,731	Officer's hall (remains to be occupied)
2	"	1	432	Lavatory	34	"	1	1,900	Former dining hall (remains to be occupied)
3	"	1	2,500	Warehouse	35	"	2	11,808	Barracks
4	"	2	7,303	"	36	Concrete	1	2,054	Garage house
5	"	1	108	"	69	Wooden	1	245	Warehouse (remains to be occupied)
6	"	1	376	Lavatory	70	"	1	425	Warehouse
7	"	1	810	Shower room	71	"	1	254	Lavatory
8	"	1	1,584	Dining room	72	"	1	260	Shower room
9	"	1	3,337	Warehouse	73	"	1	405	Office room
10	"	1	378	Lavatory	74	"	1	504	Lavatory
11	"	1	4,366	Dining Room	85	"	1	264	Warehouse
12	"	1	630	Shower Room	90	"	1	144	Office room
13	"	1	8,045	Warehouse	91	"	1	14	Police box
14	"	1	864	Dining room	92	"	1	80	Office room
15	"	1	810	Shower Room	93	"	1	20	Lavatory
16	"	1	1,126	Beer-hall					
17	"	1	370	Baking room					
18	"	1	240	Lavatory					
19	"	2	9,045	Warehouses					
20	"	2	238	Lavatory					
21	"	2	22,944	Barracks					
22	"	1	648	Office Room					
23	"	1	298	Lavatory					
24	"	1	18,336	Warehouse					
25	"	1	504	Office room					
26	"	2	18,336	Barracks					
27	"	2	848	Warehouse					
28	"	2	7,797	Barracks					
29	"	1	4,888	"					
30	"	1	4,203	Former Dispensary & sanatorium					
31	"	1	2,070	Warehouse					
32	"	1	2,070	Warehouse					
38	"	2	10,336	Barracks					
39	"	2	22,944	"					
40	"	2	3,899	Shower room					
41	"	1	432	Warehouse					
42	"	1	8,190	Former stable					
43	"	2	8,600	Former N.C.C. Hall & L.A.					
44	"	1	144	Lavatory					
45	"	2	7,733	Warehouse					
46	Wooden	1	1,788	Former magazine					
47	"	1	210	Warehouse					
48	"	1	683	Shower room					
49	"	2	10,272	Barracks					
50	"	1	1,012	Dining room					
51	"	1	1,393	Warehouse					
52	"	1	6,870	"					
53	"	2	338	Former disambiguation training place					
54	"	1	1,296	Warehouse					
55	"	1	2,050	"					
56	"	1	1,303	"					
58	"	1	6,979	Motor pool (former Cooking Room)					
59	Brick	1	216	Warehouse					
60	"	1	180	Laundry					
61	Concrete	1	139	Warehouse					
62	"	1	72	"					
63	Wooden	1	378	Lavatory					
64	"	1	390	Warehouse					
65	"	1	360	"					
66	"	1	390	"					
67	"	1	400	"					
68	"	1	202	Pumping room					
69	"	1	819	Office room					
77	"	1	848	Warehouse					
78	"	1	390	"					
79	"	1	874	Lavatory					
80	"	1	485	Lavatory					
81	"	1	1,440	Shower room					
82	"	1	4,380	Garage (former stable)					
83	"	1	1,080	Recreation room					
84	"	1	900	Dining room					
85	"	1	256	Cooking room					
86	"	1	130	Lavatory					
87	"	1	81	Former special room					
88	"	1	396	Cooking room					
89	"	1	1,080	Dining room					
91	"	1	84	Lavatory					
92	"	1	112	Electric Room					
93	"	1	132	Lavatory					
94	"	1	36	"					
95	"	1	180	"					
96	"	1	110	Warehouse					
97	"	1	92	Lavatory					
98	"	1	150	"					
99	"	1	150	"					
100	"	1	70	"					
101	"	1	70	"					
102	"	1	24	Transformer room					
103	"	1	30	Lavatory					
104	"	1	256	Coal yard					
105	"	1	43	Lavatory					
106	"	1	30	Lavatory					
Total			264,422					24,222	

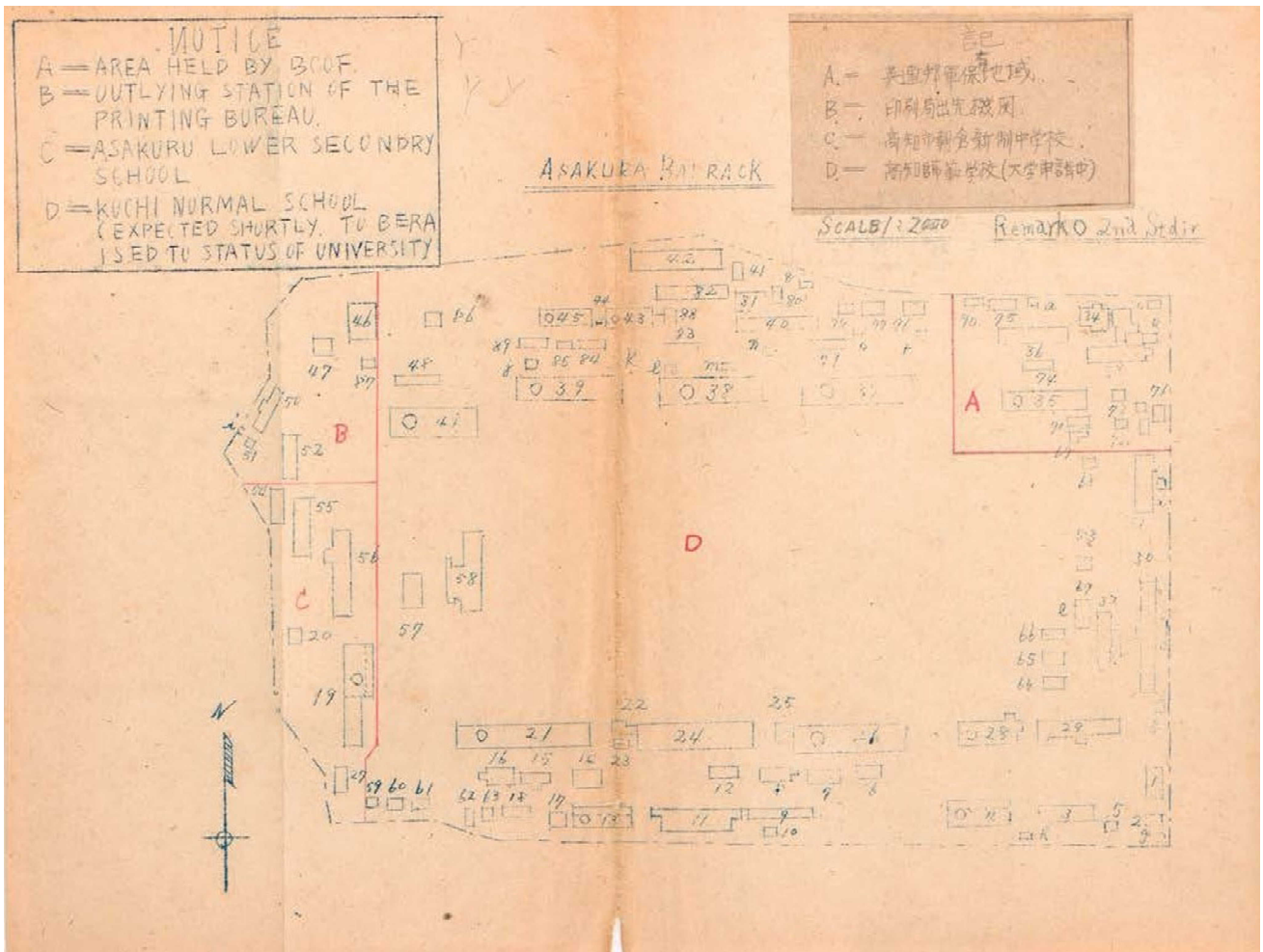


図 1.6.2 兵營が進駐軍から日本政府に返還される際の配置図および凡例

出典：『朝倉元兵舎に移転関係記録』（1947）

※高知市教育委員会『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』（2016）から引用

- ・各エリアについて、Aは英連邦軍保有地域、Bは大蔵省印刷局出先機関、Cは高知市朝倉新制中学校、Dは高知師範学校である
- ・各建造物について、46は弾薬庫、52は講堂である

第1章 計画の概要

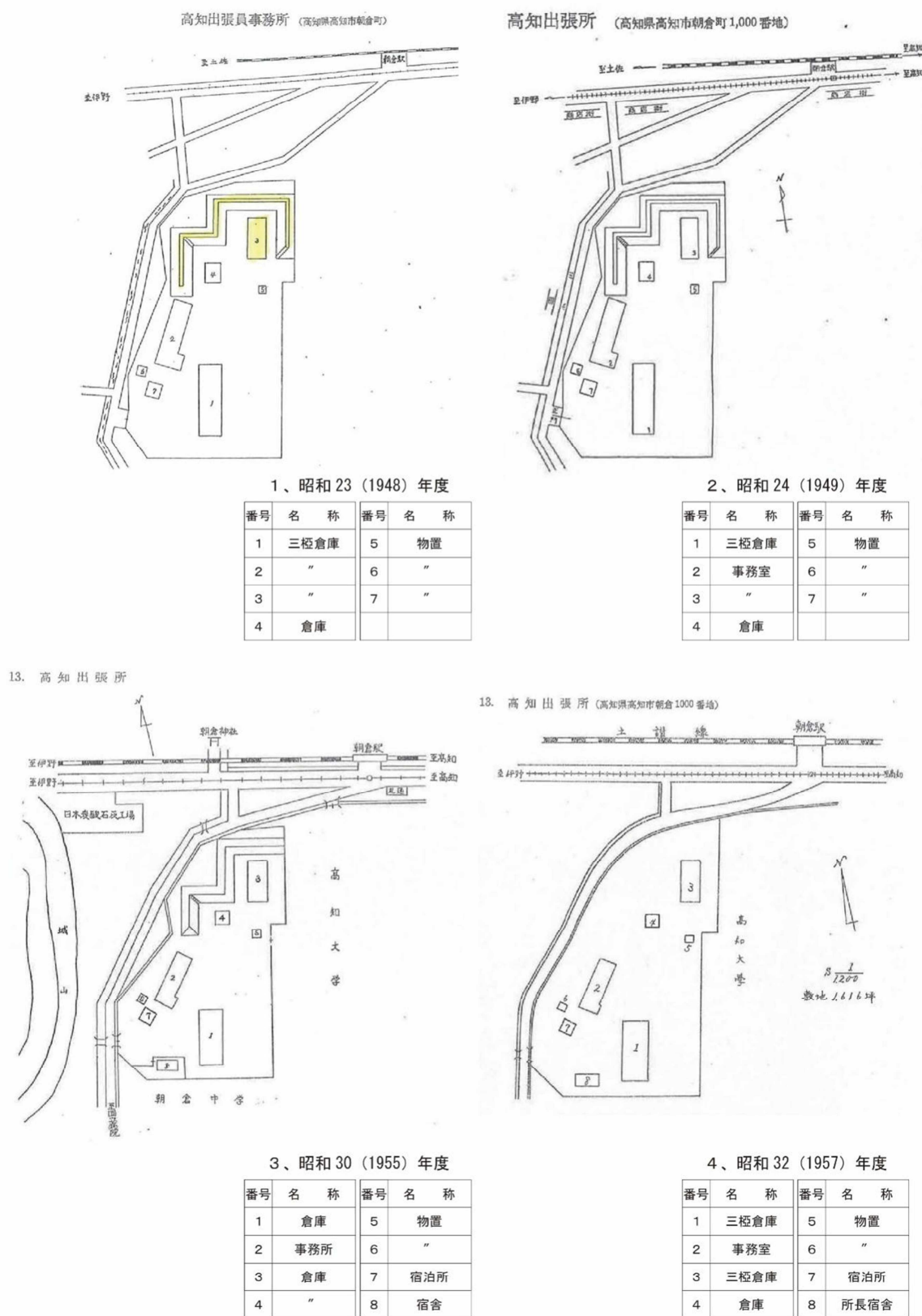


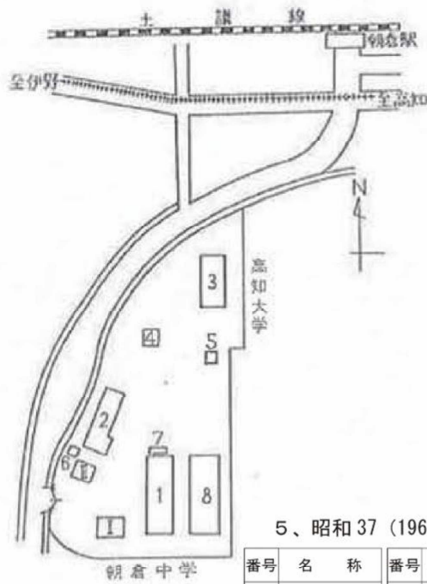
図 1.6.3 大蔵省印刷局時代における配置の変遷 (昭和23(1948)年~昭和32(1957)年)

出典：エコロジカルスタンド株式会社『旧高知倉庫 土地利用履歴等調査 報告書』

※高知市教育委員会『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』(2016)から引用

※講堂は図中における番号1、弾薬庫は番号3に該当する

13. 高知出張所（高知市朝倉1000番地）

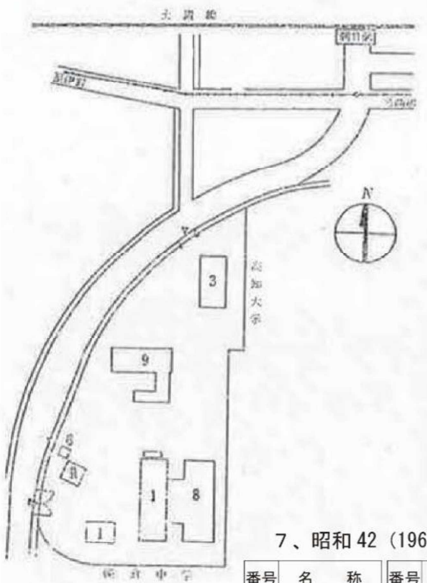


番号	名称	番号	名称
1	三桧倉庫	5	物置
2	倉庫	6	"
3	三桧倉庫	7	自転車置場
4	倉庫	8	三桧倉庫



番号	名称	番号	名称
1	三桧倉庫	6	物置
2	庁舎	7	自転車置場
3	三桧倉庫	8	三桧倉庫
5	物置	9	庁舎

高知出張所（高知市朝倉1,000番地）



番号	名称	番号	名称
1	三桧倉庫	8	三桧倉庫
3	"	9	庁舎
6	物置		
7	自転車置場		

高知出張所配置図



番号	名称	番号	名称
1	三桧倉庫	8	三桧倉庫
3	"	9	庁舎
6	物置		
7	自転車置場		

図1.6.4 大蔵省印刷局時代における配置の変遷（昭和37（1962）年～昭和48（1973）年）

出典：同前

※高知市教育委員会『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』（2016）から引用

※講堂は図中における番号1、弾薬庫は番号3に該当する

